

Title	海軍制限に関する米國の提議に就て
Author(s)	末廣, 重雄
Citation	經濟論叢 (1927), 24(4): 695-710
Issue Date	1927-04-01
URL	<a href="http://dx.doi.org/10.14989/128526">http://dx.doi.org/10.14989/128526</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

# 京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 四 卷      第 四 號

昭和二年四月一日發行

## 論 叢

古代の港

教授 文學博士

三浦 周行

俱樂部稅論

教授 法學博士

神戸 正雄

ミルの經濟學概念

講師 文學博士

米田 庄太郎

歴史學派の先  
驅者としての  
リチャード・ジョーンズ

東北帝國大學  
教授 經濟學士

堀 經夫

## 時 論

日本の對支好意政策の限界

教授 文學博士

矢野 仁一

海軍制限に關する米國の提議

教授 法學博士

末廣 重雄

## 說 苑

ブルゲン氏の諸社會主義評論

教授 法學博士

田島 錦治

産業としての林業の本質

教授 經濟學士

平田 憲夫

パンタレオニの經濟學基礎概念

經濟學士

松岡 孝兒

## 雜 錄

印度の雨

教授 法學博士

財部 靜治

# 海軍制限に關する米國の提議に就て

末 廣 重 雄

## 一

一般平和の保障とはならずして、寧ろ之に對する不斷の脅威となつた大軍備を制限し（從來私はといふ文字を使用し來つたけれども、傳ふところによれば來るべき日英米三國會談に於ては軍備の制限も問題となることとがありさうであるから、本文に於ては、特別な場合を除いては縮小を含む廣い意味に於て制限といふ文字を使用する）人類に課する過重なる經濟上の負擔を軽減せんことを目的として、千九百二十一年十一月十一日米

國華府に於て開催せられた軍備制限會議は少なからざる成功を收めたのであつた。同會議に於て成立した海軍を備制限に關する條約に依れば、英米日佛伊五國の主力艦は其の合計代換噸數を基準排水量（三萬五千噸を超ゆることを得ない）に於て、英米兩國各五十二萬五千噸、日本三十一萬五千噸、佛伊兩國各十七萬五千噸、（英米日佛伊五國主力艦の勢力比率を五、五、三、一・七五、一・七五とす）之に裝備する砲の口徑は十六吋を超ゆることを得ないとし、航空母艦は其の合計噸數を基準排水量（二萬七千噸を超ゆることを得ない）に於て、英米兩國各十三萬五千噸、日本八萬一千噸、佛伊兩國各六萬噸と定め、且香港を加へたる太平洋方面に於ける要塞及び海軍根據地の

現状維持に關する協定が成立したけれども、補助艦に關しては、基準排水量一萬噸砲の口徑八吋を超ゆることを得ないといふ制限が成立したのみであつた。

斯くして、華府會議後に於ては、主力艦及び航空母艦に就ては英米日佛伊五國の間に造艦競争が止んだ。けれども、補助艦に關しては、基準排水量の制限の外、各國ともに無制限に之を建造する自由を保留したから、激烈なる造艦競争の行はるゝ可能性は依然として存在するのであつて、たゞ競争の行はるゝ範圍が主力艦より補助艦に移つたに過ぎないのである。従て、海軍々備制限に關する條約調印國間に於て新なる造艦競争の發生を防止する策を講ぜねば、此等諸國々民は再び過重なる經濟的負擔の下に苦しまねばならぬことになり、華府會議を全く無意義ならしめることは何人も認めるどころであつた。

## 二

華府會議の主催者たる米國に於て、同會議後、其の政府當局は主力艦に關する比率を補助艦に適用することを新海軍政策とし、機を見て第二回軍備制限會議を開催して、此の方針の下に華府會議の事業を完成せんことを期した。千九百二十四年春、米國政府は軍備制限會議開催の意思を有し、同國議會は之に賛意を表したけれども、故あつて沙汰止みとなつた。然るところ、同年八月ドース案が倫敦會議に於て採用せられた結果、歐洲政局を蔽ふた一大陰翳が除去せられ、歐洲

諸國民心理の一轉換を來した。越て九月に至り、ゼネヴァ議定書が第五回聯盟總會に於て作成せられて強固なる一般的安全保障が設けられたから、世界的軍備制限に關する問題を審議する時節が到來したとして、同議定書成立の上は、一昨年六月十五日よりゼネヴァに於て軍備制限會議を開き、聯盟國たると非聯盟國たるを問はず世界の總ての國を招請する筈であつた。ところが、英國が議定書に對する自治領の不同意を重要視して、俄に其の成立に對して不熱心となつたから、一昨年春米國政府は又もや軍備制限會議の開催に關する豫備的行動に着手したけれども、佛蘭西が反對の態度を示したので、會議の不成功を慮つて中止した。

ゼネヴァ議定書は遂に不成立に終つたけれども、其代りに地方的安全保障を目的とするロカルノ條約が一昨年末成立し、少くともライン地方の平和と安全とを鞏固にする效があつた。そこで、國際聯盟に於ては、歐洲の大勢は軍備制限會議の開催に適するやうになつたと認めて、會議のプログラムを作成する爲め謂はゆる軍備制限會議準備委員會を昨年五月十七日よりゼネヴァに開いた。會議に於て取扱ふ問題の性質上、軍備制限の本案を以て自任する米國政府の反對すべき筋合のものでなく、且極端に國際聯盟を嫌忌するボラー氏等上院の一派も賛意を表したから、米國政府が準備委員會に代表者を派遣したことは、本誌第二十三卷第二號に於て述べた通りである。斯様にして、米國政府は準備委員會に参加したものゝ、軍備制限會議の成功に飽くまでも努

力する決心があつた譯でないことは、昨年春一月クリッヅ氏が米國議會に對し、準備委員會參加費として五萬弗の支出を要求した折に發した敎書中に「準備委員會の研究の結果として開催せられることあるべき會議（國際聯盟主催の軍備制限會議を指す）」に出席することが米國にとりて望まじきや否やは今日考慮すべき問題でない。予は豫備的研究が吾人の政策と一致する限り、充分に吾人の援助と協力とを與ふべきものであると考へる」と言明したところに徴して明であらう。國務卿ケロッグ氏も昨年夏八月ブラツバークに於ける演説に於て、軍備制限會議の事業が捗々しく進行せざる場合には、米國政府に於て自己の計畫を提出する用意がないでもないことを仄したのであつた。

然るところ、準備委員會に於て聯盟理事會提出にかゝる七箇條の諸問事項（經濟論叢第二十三卷第二號第二百八十二頁參照）に關する審議は、軍備制限問題を非常に複雑化し、殊に陸海空三軍備の制限は之を相關的に協定することを要するといふ佛伊諸國の主張は、最終解決の進捗を困難ならしめた。昨年九月の第七回聯盟總會は、準備委員會をして今春までに地方的及び一般的安全に關する現狀に相應する軍備制限會議のプログラムを作成せしめ、事實不可能なる場合を除き、今年秋九月の第八回聯盟總會前に軍備制限會議を開く取運びになることを聯盟理事會に要望する決議を爲したけれども、其後の成行では、今秋の聯盟總會前に其の手筈が出来さうにないと云はれるのである。米國政府は、二月十日ロ英佛伊四國政府に提出した其の覺書中に、國際聯盟主催の軍備制限會議を急速に開會

することの望みを難いことを左の如く説明してゐる。其の一節に曰く（外務省の譯、  
文による）

之と同時に準備委員會によりて指摘せられたる前記錯誤及困難の存するが爲め、軍備問題の終局的解決は即時實行を期し得べからざることも亦明となりたり。加之最近の聯盟理事會に於て軍備制限運動の指導者たる著名政治家も亦其の達成を期する極端なる樂觀に對し警告するところありたり。

軍備制限につき具體的結果の達成せられんことは米國政府の切望に堪へざる所なり。準備委員會に於ける討議の結果多數の政府に於ては軍備の一般的縮小及制限に對する現存の主要なる障礙の一は陸海空軍の相互に依倚すること、及其の結果其の一の縮小又は制限は同時に他を處理するにあらざれば不可能なる點に在るの事實顯著となれるのみならず、他方に於ては軍備の縮小又は制限に對する努力にして軍備の一切の種類及態様に亘る全般的計畫に對して全世界の受諾に繋らしむるときは近き將來に於て軍備制限問題の進捗は事實殆んど之を期し得べからざること愈々闡明せられたり。右の難點は率直に之を承認せざるべからざるものと信ず。蓋し右障礙を剪除し得ず、軍備制限に關し部分的なるにもせよ、何等か確定的なる協定を成立せしむるに失敗せんか、國際平和を逆轉せしむるの結果を將來すべし。

右の理由の外に内政上の關係もあつて、米國政府は「陸軍及び空軍々備は、本質上主として地方的協定により地方的に之を解決すべきものと思惟し」、「海軍々備制限問題は其の性質上地方的のものではないけれども、實際問題として特定せる數國の海軍に影響を及ぼす方法により之を處理することを得」るといふ理由の下に、後者を前者より切離し、去る二月十日、海軍々備制限に關する條約調印國政府に對し、造艦競争に關する華府會議の事業の完成を期する爲め、右の條約に包含せられざる艦種即ち補助艦に關する制限協定を目的とする商議を開始せんことを提議し

た。

### 三

國際的不和を緩和し、各國の産業及文化的發達に對して與ふる苛酷なる負擔を輕減する爲め、軍備を制限することの望ましいことは論ずる迄もないことである。從て、華府會議前に於て、私は同志の者と共に起つて、陸海軍備を制限して軍事費負擔の輕減を實現すべきことを叫んだのであるが、希望通りに華府會議開會せられ、其の結果行はれた我が八八艦隊計畫の中止は我國の財政上經濟上に甚大なる利益を與へた。一説によれば、謂はゆる海軍休日期間たる十年間の國費節約想定額は實に參拾億圓即ち平均一箇年參億圓に上るさうであるが、若し夫れ華府會議がなかつたならば、或は勢の趨くところ八八八艦隊計畫遂行の已むを得ざるに至つたかも知れ難いから、華府會議によりて我國の財政が軍事費の壓迫より免れ得た利益は實に莫大であると云はねばならぬ。然るに、今や世界的に補助艦に關する造艦競争が開始せられ、我國も亦補助艦艇補充計畫遂行の爲めに年々少なからざる經費を支出せねばならぬことになつて、華府會議前の狀態に逆戻しつゝあるのであるから、新に補助艦の制限に就て協定し、華府會議の缺陷を補充することは衷心より歡迎するところである。けれども、私は最近に開催せらるべき軍備制限會議準備委員會に參列する日英米佛伊五國の間に於て、右の軍備制限會議の外に同一目的を有する別個の會議を開き



たいといふ米國政府の今回の提議には賛成し兼ねるのである。

抑も、國際聯盟は其の成立以來、世界的軍備制限問題の解決に腐心しつゝあつたが、昨年に至り漸く其の實行に向つて一步を進め、上記の如く準備委員會を開催する運びとなつた。準備委員會の今日迄の經過を見るに、其の前途樂觀を許さぬことは疑のないことであつて、米國政府が二月十日の覺書中に云ふところは遺憾ながら真相に近いと云はねばならぬけれども、兎も角も準備委員會の事業は目下進行中であるのである。然るに、非聯盟國ではあるが特に招請せられて參加した米國政府が、今日自國主催の軍備制限會議を開催せんとするのは、謂はゆる檐を借りて母屋を乗取らんとするものではあるまいか。

云ふまでもなく、國際聯盟規約第八條に規定する軍備縮小は國際聯盟の大使命であり、其のレゾルヴェーションの一であつて、其の機關たる聯盟總會や聯盟理事會は之が實現の爲め大に努力しつゝある際のことであるから、事業が一段落を告げる迄は軍備制限問題の解決は之を國際聯盟に一任するが至當ではあるまいか。國際聯盟主催の軍備制限會議が開かれるか否か。幸に開かれることになるにしても成功の見込があるか否か。此等の點は今年秋の聯盟總會迄待てば、遅くとも恐らく今年一杯待てば大抵見極めが付く筈であるにも拘はらず、「國際聯盟規約第八條によれば軍備制限の事業は國際聯盟の手に在るべきではあるが、過去の歴史に徴するに、華府會議を除いて

は何等の結果を齎らなかつたではないか」と稱して、國際聯盟主催の軍備制限會議の失敗を豫測し、米國一流の我儘振りを發揮して、今日に方りて自國主催の軍備制限會議を提議することは、如何にも國際聯盟を無視した行動ではないか。幣原外相は過日衆議院豫算委員會に於て一議員の質問に對し、軍備制限の事業は國際聯盟の獨占事業ではない、國際聯盟の事業に協力するは善いことであると答辯したけれども、米國政府の爲さんとするところは、國際聯盟に於て審議の途中に在る問題を、其意に反して之を自國主催の會議に移さんとするのである。米國政府は國際聯盟の事業を援助せんとするのではなく、之を横取せんとするのである。如何にも我儘千萬のこととて、國際聯盟の權威を毀れるものでなくて何であらう。

もつとも、米國は非聯盟國であるから、國際聯盟の權威を尊重せぬからとて深く之を咎めることは出来ないかも知れぬが、其の提議に賛成する我國に至つては全く立場を異にするのである。我國は國際聯盟の一員、しかも大國として重要な地位を占むる一員であるのみならず、我が國民の生存と密接なる關係を有する諸問題即ち移民問題原料問題を始め、一般に通商衡平待遇問題として知られる問題を平和手段によりて解決するには、是非とも國際聯盟の力に頼らねばならぬ事情の下に在るのである。従て國際聯盟を極力守り立て、健全なる發達を遂げしめねばならぬ立場に在る以上、我國は暫らく準備委員會に於ける軍備制限問題の成行を見て、然る上にて賛否を

決すべきではあるまいか。如何に軍備制限を熱望するからとて、時機尙早である米國政府の提議に一も二もなく賛成し（米國政府の提議によれば、會議を三月二十一日に開かれるべき準備委員會と同時若くは其の直後に開催せんとするのを、我が政府は諸般の準備並に東京とゼネヴァとの間の旅程に要する時日の關係上来る六月一日以後に延期せんことを求めたに過ぎぬ）、大切な國際聯盟の權威を冒瀆することを顧みざるは、思はざるの甚しきものであると云はねばならぬ。之を「國際聯盟が軍備制限問題を最も重要な任務として、準備委員會の事業が着々進捗しつゝある今日、右の審議を他に移さんとするは國際聯盟の權威を弱むることになる」といふ理由に依つて國際聯盟の權威を擁護せんとする佛蘭西政府、並に「米國政府主催の會議とゼネヴァに於ける準備委員會の議事との關係の用意周到なる調節」を必要とする英國政府の態度に比べて、我が政府の國際聯盟に對する態度が如何にも冷淡であり、不忠實であることを悲しまざるを得ない。

#### 四

佛蘭西政府が米國政府の提議拒絶の理由とするところの一は國際聯盟の權威擁護といふことに在るが、尙他にそれ以上の理由があることを認めねばならぬ。惟ふに、華府會議に於て補助艦に關する協定を不成立に終らしめた責任者は佛蘭西であつた。當時米國は英國の援助を得て佛蘭西に對し、其の潜水艦割當を現在噸數の維持即ち約四萬二千噸に限定せんとしたのであるが、佛蘭西は潜水艦九萬噸巡洋艦三十三萬噸の主張を固執して、遂に何等の決定にも達することが出来な

かつた。爾來此の問題に對する佛蘭西の態度は極めて強硬であつて、翌千九百二十三年夏議會に於て海軍々備制限に關する條約批准案討議の際、政府當局は補助艦の制限につき新に軍備制限會議を開催する場合に、佛蘭西政府は主力艦に關する比率を補助艦に適用することに斷乎として反對すべき旨を言明した。一昨年春米國政府に軍備制限會議招集の意思があつたときにも、佛蘭西政府は矢張此の意向を明にしたから會議は沙汰止みとなつたやうな次第である。斯様な譯で佛蘭西は朝野ともに、華府會議に於ける苦き經驗よりて、同會議と同じく政治的立場より軍備制限を斷行せんとする會議に不安の念を抱いてゐるのであるが、最近に於て此の態度を一變せしむるやうな重大なる事情の變化があつたであらうか。

抑も佛蘭西は阿弗利加北海岸にチュニス、アルゼリアの兩植民地及び被保護國としてモロッコを有し、戰時に此等と自國との海上 絡を斷たれぬ爲めには、西部地中海の制海權を必要とするのであるが、英國も亦本國と印度を始め東洋及び南洋に於て有する其の廣大なる植民地との間のスエズ運河經由による海上交通線の安全を保持することは、帝國の存在上一日も閑却すべからざるところである。ところで、世界戰爭前に於ては、獨逸海軍に對抗する爲めに、英國は自國海軍の精銳を北海方面に集中した關係上、地中海の防禦は之を佛蘭西海軍に一任した。けれども、世界戰爭後歐洲政局の根本的變化に伴ふて、英國は再び其の海軍の主力を地中海方面に移し、佛蘭

西と對峙する勢が現はれるやうになつた。此の新形勢に直面して、佛蘭西は財政難に苦しむにも拘はらず、對英關係上、其の劣弱なる主力艦の勢力を補助艦を以て補充する必要に迫られてゐるし、且伊西兩國海軍との勢力均衡を維持する爲めにも、亦補助艦の勢力増加を急務と感ずるのである。従て、米國政府は二月十日の覺書を以て、各國の維持すべき海軍力の比率に關して固定的提案を爲すに躊躇すと云ひ、佛蘭西の維持すべき海軍力の比率に關しては其の特殊の事情を充分考慮すべき旨を明にしたといふものゝ、尙米國政府主催の會議に於ては海軍々備制限に關する條約の一般原則が討議の基礎となつて自國の不利となる虞がある以上、佛蘭西政府が會議參加を應諾するに躊躇することは、智者を待たずして識るべきであらう。

伊太利に於て、是近ムツソリーニ氏は、年を追ふて切迫する同國の人口問題解決の爲めに帝國主義的政策を遂行せんとしつゝあるのである。之が爲め、伊太利はモロッコに於て、土耳其に於て佛蘭西と衝突し、同國を想定敵國として敵意ある態度を示し、之に伴ふて海軍擴張熱が自ら高まり來つた。ムツソリーニ氏は絶叫して曰く、

伊太利は海岸線長く、重要都市が海岸近くに在るが故に敵國の攻撃に對して之を掩護するが爲め、外國より生活必需品の輸入を保障するが爲め、更に又海外に於ける伊太利の利益を保護し且植民政策的發展を爲さんが爲めに、地中海第一の海軍を建設することを必要とする。

伊太利政府當局は、現状の下に於ては、伊太利の現在海軍力を以て最小限度のものとするのであるから、佛蘭西の参加せぬ海軍制限は伊太利の國防上の安全を危殆ならしむるものとして、之に同意せぬことは當然である。

上記の次第であるから、佛伊兩國の不賛成は、米國政府が豫期せねばならぬことであつたけれども、兩國が海軍々備制限に關する條約調印國たる關係上、一應順序として五國會議の提議を爲し、佛伊兩國の拒絶ある以上、日英米三國の會議を開催すべく腹を極めてゐたものではあるまいかと思はれる。然るところ、英國政府は我が政府とともに五國會議の招請に應じたのみならず、佛蘭西の不參加にも拘はらず、三國會議に關する新提議も快諾したから、何れ遠からず會議開催の運びとなるであらう。

來るべき三國會議に於ける米國政府の態度は、上述の如く五國會議提唱の覺書中に「此際各國の維持すべき海軍力の比率に關し固定的提案を爲すことを躊躇す」と云ひ乍ら、「海軍々備制限に關する條約に規定せざる艦種につきては英國米國及び日本に對し五、五、三の比率の適用を承諾する意向を有する」と言明するところに照して略推知することが出来る。之に對して非公式に發表せられたところによれば、我が政府は、主力艦の比率を其儘補助艦に適用することは公正にして合理的なる方法であるとは信じない。補助艦は各國の現在勢力を基礎とするばかりでなく、各

國の國情と資源とを考慮し、充分研究を遂げた上で協定する決心であるさうである。

英國政府は、五國會議に關する米國政府の提議に對する回答に於て、帝國の特殊なる地理的事  
情並に帝國內に於ける交通線の頗る長きこと及び帝國內の食料供給を保護する必要等に關する要  
求を會議に於て充分斟酌せらるべきことを力説した位であるから、佛蘭西の參加せぬ會議に於  
て、果して安んじて補助艦制限に同意するであらうか。一の疑問である云はねばならぬ。

英國の對佛不安は、或る方法例へば四圍の事情の變化によりて重大なる影響を受けたる場合に  
海軍々備制限に關する條約を再議改正することに關する同條約第二十一條の規定を擴張すること  
によりて緩和することが出來るとしても、米國政府が華府會議に於けるが如く暴君的態度を示す  
ことなく、日英兩國の立場を充分に考慮し、其の合理的なる主張を尊重する誠意のない限り、三  
國會議成功の可能性は頗る乏しいと思はれる。クローツヂ氏は、二月十日の覺書中に云ふが如く  
「軍備制限に關し、部分的なるにもせよ何等か確定的なる協定を成立せしむることに失敗せんか、  
國際平和を逆轉せしむるの結果を將來」するの虞あることに深く留意し、會議の成功の爲めに懸  
命の努力を爲さんことを、日英米三國々民延ては人類一般の幸福の爲めに希望せざるを得ない。

## 五

以上述べた通りの次第で、私は今回の米國政府の提議には時機尙早の故を以て不賛成である。

けれども、軍備制限其のことに元來賛成であるから、我が政府が會議に欣然參加することに決した以上其の成功を祈ると同時に、我國の代表者が會議の席上に於て主張せねばならぬと考へるところのものについて數言を費したい。

華府會議に於て、日英米佛四國は、將來に於ける太平洋上の平和を保障する目的を以て「太平洋方面に於ける島嶼たる屬地及び島嶼たる領地に關する四國條約」により、互に太平洋方面に於ける其の島嶼たる屬地及び島嶼たる領地に對する其の權利を尊重すべく、且四締約國の何れかの間に太平洋問題に起因し且前記の權利に關する爭議を生じ、外交手段によりて満足なる解決を得ること能はざる場合には、右締約國は他の締約國を招請して共同會議を開き、之に當該事件を附議すべきことを約し、之と同時に、我國の提議に基いて、日英米三國は海軍々備制限に關する條約第十九條によりて、太平洋上の各自の領土及び屬地に於ける要塞及び海軍根據地に關し、同條約調印のときに於ける現狀を維持すべきことを協定した。之によれば、我國は千島諸島琉球諸島臺灣及び澎湖諸島並我國が將來取得することあるべき太平洋に於ける島嶼たる領土及び屬地は勿論のこと、奄美大島（鹿兒島縣）小笠原島（東京府）の如き本土の一部を構成するもの、防備に關してすら制限を受けるけれども、此の防備制限に關する協定は太平洋の一部に適用があるのみで、米國は巴奈馬運河地帶の海岸に近接する島嶼及び布哇諸島に關しては制限を受けぬから、日米の



間に權衡を失うことが甚しいと云はねばならぬ。

米國は布哇諸島を防備制限區域以外に置くことを得たるに乘じ、華府會議後、之を太平洋上のジブローターとすべく其の防備を擴張しつゝあるから、之が爲めに我國は多大の脅威を感じるのである。若し米國政府にして、米國は日本を、日本は米國を攻撃することを出來得る限り困難ならしむる状態を設け、依て以て防備制限に關する協定の精神を徹底的ならしめんと欲するならば、三國會議に於て、同協定を擴張して之を布哇諸島に及ぼすことを自發的に提議すべきであると考へる。けれども、之を米國政府に望み難いであらうから、我が政府は、既に華府會議に於て爲した全太平洋に於ける防備制限に關する主張を繰返して、其の貫徹に努めねばならぬ。

上記協定により、英國は加奈陀海岸に近接する島嶼、濠洲及び新西蘭を除き、香港及び同國が東經百十度以東の太平洋に於て現に有し又は將來取得することあるべき島嶼たる屬地の防備に關して現狀維持を約した。然るところ、英國現政府は濠洲及び新西蘭等の要求を容れ、新嘉坡が東經百十度の防備制限區域の西端を離るゝ少許の地點にあるに乘じ、茲に難攻不落の大海軍根據地を築造しつゝあるのである。

此の計畫は太平洋の東方に在る布哇諸島と相對して、其の西方に第二の太平洋上のジブローターを設け、我國を包圍して手も足も出すごとの出來ぬ状態に陥らしめんとするものであるから、

我國の海軍擴張を刺激し、極東を中心として新に造艦競争を惹起する導火線となることは疑がない。従て英國に於ても、新嘉坡海軍根據地建造計畫は海軍々備制限に關する條約に違反するものではないが、其の精神と相容れざるものであるといふ有力なる非難があり、前マクドナルド内閣は英國の對日外交政策上面白からぬ影響があるものと認めて、建造を中止したやうな次第である。グレー子も亦此の計畫に反對して、上院に於て左の如く論斷した。

英國が新嘉坡に大海軍根據地を建造せんとすることは、其の想定敵國の日本に外ならぬことを率直に言明せよ。予は日英同盟の記憶に信賴して日英兩國間に衝突を生ずるが如きは絶對に之を信するを得ない。……新に大海軍根據地を建造して、之に巨額の費用を投ずるが如きは無謀の甚しきものであると云はねばならぬ。而して之が爲めに事態を惡化し、遂に各國の軍備競争を再現することになれば、華府會議の最大目的を破壊せざるを得ないであらう。

至言である。米國は布哇諸島に、英國は新嘉坡に據り、東西相應じて大に我國の安全と極東の平和とを脅威しながら、我國に軍備制限を強いんとするは何事である。英米兩國にして苟も三國會議の成功を欲するならば、先づ是等軍備制限を目的とする會議の精神と矛盾するところのものを除去せねばならぬ。我國の代表者が同會議に於て極力主張せねばならぬことは即是である。